

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)

めぐみいけおよびめぐみいけひ

恵池及び恵池碑

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



場所

くらしきし たましまくろさき
・倉敷市玉島黒崎



時代

えどじだい
・江戸時代



指定年月日

しょうわ
・昭和45(1970)年
3月20日



所有

くらしきし
・倉敷市



し せき

この史跡について

たましまくろさき さみかいがん じんこういけ てんめい かもがた しゅしがくしゃ
玉島黒崎の沙美海岸の近くに三角形の人工池があります。天明6(1786)年、鴨方の朱子学者
にしやませつさい おとず さみ じゆんぼく さみ うらうた
西山拙斎がここを訪れたとき、沙美の人々の純朴さにうたれ、『沙美の浦歌』という詩をつくり
ました。

くらしきだい かん すげのや ながまさ かんせい がん おとず せつさい うた
この詩を読み感動した倉敷代官菅谷長昌は、寛政元(1789)年にこの地を訪れ、拙斎の歌った
にんじょうふ ぜい ふ すげのや ながまさ せつさい し みき ぼくふ
とおりの人情風情に触れました。菅谷長昌が拙斎の詩とともに、ここで見聞きしたことを幕府
ほうこく ぼくふ ぱくぎん まい さみ かし
に報告したところ、幕府から白銀20枚が沙美の人々に下賜されました。

さみ えいよ こうせい みな のうぎようよう すい たくわ ためいけ つく めぐみいけ
沙美の人々はこの栄誉を後世に伝えようと、皆で農業用水を蓄えるための溜池を造り、恵池
なつ ぼくたん せつさい けい い する ぶん そどうい ふで と
と名付けました。そして、池の北端には拙斎がこの経緯を記した文をつくり、曾道怡が筆を取っ
ひ た
た碑が建てられたのです。